

行政視察報告書

令和2年7月27日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 創政みらい

議員 森岡聰子 印
議員 仁科文秀 印

議員 栗尾典子 印

記

行程

笠岡市真鍋島日帰り

目的

6月から地域おこし協力隊として笠岡市に赴任している武井さんに現状の活動と今後の計画などを聞き、協力隊の活動を深めてもらい笠岡市に定住してもらうための問題点を明らかにする。藤井議長、斎藤副議長以下、議員有志での参加。

【1】笠岡市真鍋島

住所	笠岡市真鍋島
電話	
視察案件	地域おこし協力隊員の現状と課題を調べる
期日	令和2年7月20日（9時50分～11時40分）
応対者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	三虎
概要	●7月24日付の山陽新聞によると、地域おこし協力隊の隊員の25%が着任から1年以内に辞めていたことが調査でわかったとのことでした。その半数近くは住民や行政との関係で悩みを抱えており、活動前から十分な意思疎通を図ること、受け入れ態勢の整備が定着のカギになると指摘していました。

●笠岡市では、数年前から地域おこし協力隊を積極的に招き、定住を目標に活動を進めていますが、定着率は低く、成功しているとはいえないません。

過去の仁科の質問にも、当時の政策部長が「笠岡の活動は自由度が高く隊員の自主性に任せてあることを誇っていましたが、逆にいうと放任で責任をもたず、国からの交付金とはいいながら経費がむだに使われてきたと言つても過言ではありません。

●このたび、6月から真鍋島に来た武井優薰さんは、神奈川県厚木市の出身で35歳。6月24日から活動を開始しています。ジャイカにてパナマでの2年間の活動経験があり、「観光」を自分のテーマとしてこれから取り組みます。奥さんも同じくネパールでの活動経験があり、ヨガのインストラクターもできます。漁村に憧れ、真鍋島のまち並みにひかれたとのことで、地域行事にも積極的に参加したいと意欲的でした。

●意見交換で気になったこと

①笠岡市の関わりが少なく自由度が高すぎること

月1回の報告、情報共有の機会はあるものの、事前のオリエンテーションがあるわけではなく、「観光」をテーマとしたい武井さんを商工観光課や商工会議所に紹介したり繋いだりはしておらず、本人に任せています。初めて笠岡市に来た隊員にはハードルが高く、どこにどんな部門があり職員がいるのか、市内の関係団体にはどのようなものがどこにあるのかがわかりません。それらを調べ理解し、関係づくりをするだけでも1か月ではできません。時間もむだです。

②真鍋島での活動

地域の行事へ出て人間関係づくりをこれから進めていきますが、島しょ部は島づくり海社と反島づくり海社の人がいるようだ と彼が言う通り、彼の立ち位置が問題になります。島内にそのような対立がなく、気を使うことなく思い切って目標に向かって活動を深化できればいいと願います。

以上の①②ともに笠岡市の関わり方や指導、地域への働きかけが大きなポイントになります。地域おこし協力隊制度を成功させるのも失敗させるのも行政の役割と責任が大きいと考えます。

日々考え、悩みながら活動をしていきますので、気軽に相談し、アドバイスをくれる人の存在も必要です。島しょ部のことがわかっていて、偏ることなく公平に親身になってくれる人が望ましいと思います。

私たち議会、議員は、笠岡を選んで来てくれた隊員が気持ちよく活動をし、所期の目的を達成できるように協力し、支援していきたいものです。

名刺

写真

